

2012年度

環境活動レポート

(2012年4月～2013年3月)

表彰状 優秀賞

株式会社新日本環境コンサルタント様

あなたは環境保全への深い理解をもって
先進性及び継続性に富んだ環境活動に
積極的に取り組み行動の輪を広げ
本市の環境にやさしいまちづくりに貢献
されその功績は誠に顕著であります
よつてここに福岡市環境行動賞
優秀賞を贈り表彰します

平成二十四年十一月八日

福岡市長 高島宗一郎



(福岡市環境行動賞)

株式会社 新日本環境コンサルタント(ENJEC)

2013年5月1日

目 次

1.	組織の概要	2
2.	対象範囲	2
3.	環境方針	3
4.	環境目標の設定	4
5.	主要な環境活動計画の内容	5
6.	環境目標の実績	6
7.	環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容	9
7. 1	二酸化炭素排出量の削減	9
7. 2	廃棄物排出量の削減	9
7. 3	総排水量の削減	10
7. 4	地域の環境保全活動への貢献	10
7. 5	化学物質使用量の削減	13
7. 6	グリーン購入の推進	14
7. 7	サービスの環境配慮	14
7. 8	エコアクション21の広報活動	14
7. 9	次年度の取組内容について	14
8.	環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価結果並びに 違反、訴訟などの有無	16
9.	代表者による全体評価と見直し結果	17

1. 組織の概要

- 1.1 事業所名 株式会社 新日本環境コンサルタント(ENJEC)
代表者名 代表取締役 津村 英介
- 1.2 所在地 〒815-0075 福岡市南区長丘3丁目1-18 新日環ビル
- 1.3 環境管理責任者 技術部長 木村 健
担当者氏名 総務部長 山崎 仁子
技術顧問 徳永 隆司
連絡先 TEL (092) 561-8716 FAX (092) 561-4791
Eメールアドレス shinnihon@enjec.com
URL <http://www.enjec.com>
- 1.4 事業の内容 濃度計量証明及び環境試験調査
- 1.5 事業の規模 事業年度 4月～翌年3月

		2010年	2011年	2012年
従業員数(人)		32	33	34
床面積(m ²)	本社	410	410	1245
	研究所	680	680	

2. 対象範囲

- 2.1 事業者 株式会社 新日本環境コンサルタント(ENJEC)
- 2.2 事業活動 環境及び飲料水等に関する分析・測定・検査・調査並びに
試験研究業務
- 2.3 対象事業所 〒815-0075 福岡市南区長丘3丁目1-18 新日環ビル

3. 環境方針

環 境 方 針

かけがえのない地球環境を守ることが私たちの使命であること、及び当社が環境コンサルタントであることを認識し、関連法規を遵守することはもとより、地球の環境保全や生物の保護活動に貢献します。また、常に環境負荷の低減に配慮した事業活動に取り組み、以下の活動を行って、環境負荷を継続的に削減します。

1. 事業活動において、二酸化炭素の排出量の削減に努めます。
2. 水の使用量の削減に努めます。
3. 廃棄物を削減し、リサイクルやグリーン購入に努めます。
4. 薬品の使用量の削減と低毒化に努めます。

20011年4月1日

株式会社 新日本環境コンサルタント
代表取締役 津村 英介



4. 環境目標の設定

環境負荷の自己チェック結果及び環境取組のチェック結果に基づき、環境目標選定・決定表を作成し、その結果から環境目標を設定しました。

「二酸化炭素排出量の削減」については、当社の排出源として、自動車の燃料の使用、都市ガスの使用及び電気の使用があります。自動車の燃料については、業務の範囲が九州一円で、毎年、自動車の走行距離が大きく異なること、また、都市ガスについても湯沸器に使用する程度で、使用量が少ないため、自動車用燃料と都市ガスについては、数値目標を掲げないこととしました。例年、二酸化炭素排出量の削減目標量は使用エネルギーすべての総量で前年度比マイナス 1.5%とし、取組目標として電力の使用量を前年度比マイナス 2.0%として運用してきましたが、2012年度は新社屋へ移転したことから、取組目標を「年間使用量の把握」としました。

「廃棄物排出量の削減」については、廃液・汚泥の排出量(廃棄物の最終処分量)の削減(前年度以下)及び用紙の購入量の削減(前年度比マイナス 2.0%)を、一方、紙類のリサイクルの促進については、「年間再利用量の把握」を取組目標としました。

「総排水量の削減」については、下水道放流であることから給水量の削減を目標とし、例年、前年度比マイナス 2%で運用してきましたが、2012年度は新社屋への移転に伴って、目標を「年間使用量の把握」としました。

また、当社が水質、大気、土壌などの環境関連の計量業務を行っていることから、前年度に引き続き、「地域の環境保全への貢献」を目標に掲げ、地域の井戸水の無料検査、社員の環境資格の取得、社屋の緑化、河川などの清掃活動及び天然記念物のツクシオオガヤツリの保護活動を実施しました。

その他、化学物質使用量の削減、サービスの環境配慮及びグリーン購入の促進にも取り組みました。

5. 主要な環境活動計画の内容

環境活動の実行については、「エコアクション活動手順書」を作成し、それを基に活動しました。主な活動の内容は以下の通りです。

- 5.1 二酸化炭素排出量の削減（前年度比 1.5%削減）のための取組
購入電力量の削減（使用量の 2%削減）、本年度は「年間使用量の把握」
 - ①エアコンの適温化の徹底
 - ②昼光の利用、不在時の消灯、昼休みの消灯自動車のエコ運転活動
- 5.2 廃棄物排出量の削減のための取組
紙購入量の削減（前年度比 2%削減）
 - ①両面コピーの実施、片面使用紙の再利用紙類のリサイクル（前年度比 3%増）、本年度は「年間再利用量の把握」
 - ①段ボール等のリサイクル廃液・汚泥の減量化（前年度以下）
 - ①廃棄物の法令に基づく適正処理の実施
 - ②廃液・汚泥の減量化（前年度以下）
- 5.3 総排水量の削減のための取組
節水の実施（前年度比 2%削減）、本年度は「年間使用量の把握」
 - ①節水活動の推進
- 5.4 地域の環境保全活動への貢献
環境活動への参加と環境資格の取得
 - ①大濠公園と樋井川の環境活動
 - ②社屋の緑化
 - ③社員の環境資格取得の支援
 - ④地域の井戸水の無料検査
 - ⑤希少水生植物のツクシオオガヤツリの保護活動
- 5.5 化学物質使用量の削減
 - ①PRTR 物質の使用量の削減
 - ②毒物・劇物の保有種類数の削減
- 5.6 グリーン購入の推進
グリーン製品購入量の増加
- 5.7 サービスの環境配慮
分析方法の見直し（少量化、低毒化）
- 5.8 エコアクション 21 の広報活動
環境活動レポートの作成、公表

6. 環境目標の実績

表1に本年度（2012年4月～2013年3月）及び過去2カ年について、E A 21を運用した結果を示します。新社屋における購入電力量は224,376Kwhで旧社屋の98.7%でした。「廃棄物排出量の削減」については、紙購入量は増加傾向にありますが、廃液・汚泥の排出量は減少しました。また、紙類のリサイクルについては、新社屋への移転に伴い、紙リサイクル量が一時的に増加したこともあり、新社屋での実績は旧社屋より少なくなりました。紙購入量は毎年増加しており、是正処置を実施しましたが、主な原因は業務の増加と内容の変化であり、有効な処置を行うことが難しいことから、新たな指標として次年度から「古紙リサイクル率」を用いることとしました。「総排水量の削減」については、新社屋での使用量は1,484m³で旧社屋の75.9%でした。「地域の環境保全への貢献」については、清掃活動への参加及び環境資格の取得などの取組を実施し、エコアクション21活動を開始して以来、継続して目標を達成しています。

新社屋への移転に伴って、2012年度は、電力使用量、購入水量及び紙類のリサイクル量については、「実績の把握」を目標としましたので、2013年度からはその値をベースに継続的な改善を計って行きます。

表2に来年度の目標を示します。「廃棄物排出量の削減」については、「紙購入量の削減」と「紙類のリサイクルの促進」を合わせた指標として「古紙リサイクル率」： $\text{紙類のリサイクル量 (Kg)} / \text{紙購入量 (Kg)}$ を新たな指標として導入し、数値目標は過去の実績から85%以上としました。

その他、エコアクション21を中心とした環境活動の実績が認められ、2012年11月に福岡市長から「福岡市環境行動賞・優秀賞」（写真：表紙）を授与されました。このような機会を励みとして、さらに社員全員で活動を向上させていきます。

表1 3年間の実績と中長期目標

環境目標	取組目標		2010 年度	2011 年度	2012 年度	中長期目標 2015年度
CO ₂ 排出量の削減	購入電力量を含む省エネ(-1.5%) 総量(CO ₂ Kg)	目標	175,104	151,582	年間使用量の把握*	124,241
		実績	153,891	133,259	130,004	—
	購入電力量の削減(-2%) (Kwh)	目標	315,088	251,091	年間使用量の把握*	211,180
		実績	256,216	227,146	224,376	—
廃棄物排出量の削減	紙購入量の削減(-2%) 購入量(枚)	目標	242,550 以下	251,370 以下	250,880 以下	古紙リサイクル率 (%)
		実績	247,500	256,500	316,500	
	紙類リサイクルの促進(+3%) 利用量(Kg)	目標	1,085 以上	765 以上	年間再利用量の把握*	85 以上
		実績	743	2,300	1,178	—
	廃液・汚泥の減量 (前年度以下) 処分量(Kg)	目標	6,301 以下	7,278 以下	7,340 以下	4,569 以下
		実績	7,278	7,340	4,569	—
総排水量の削減	節水の実施(-2%) 水量(m ³)	目標	2,533 以下	2,458 以下	年間使用量の把握*	1,396
		実績	2,509	1,953	1,484	—
地域の環境保全への貢献	地域環境活動への参加	目標	30点 以上	30点 以上	30点 以上	30点以上
		実績	44点	42点	38点	—
化学物質使用量の削減	PRTR物質の使用量の削減(前年度以下)量(g)	目標	—	使用量の把握	5360以下	前年度以下
		実績	—	5,360	5,765	—
グリーン購入の推進	製品購入額の増加(+2%)額(円)	目標	—	購入額の把握	563,248	790,869
		実績	—	552,204	745,254	—

排出係数は0.369Kg-CO₂/kwh(平成21年度,九州電力)

*: 新社屋への移転(2012年1月)に伴い、使用量及び再利用量を把握した。

表2 今年度の実績と次年度の目標

環境目標	取組目標	単位	2012年度	2013年度
CO ² 排出量の削減	購入電力量の削減を含む省エネ (-1.5%)	年間総量 (CO ₂ Kg)	年間使用量の把握*	128,053
	購入電力量の削減 (-2%)	年間電力量 (Kwh)	年間使用量の把握*	219,888
廃棄物排出量の削減	紙購入量の削減 (-2%)	年間購入量 (枚)	316,500	古紙リサイクル率 (%) へ変更 85%以上
	紙類のリサイクルの促進 (+3%)	再利用量 (Kg)	年間再利用量の把握*	
	廃液・汚泥の減量 (前年度以下)	処分量 (Kg)	4,569	4,569 以下
総排水量の削減	節水の実施 (-2%)	年間総量 (m ³)	年間使用量の把握*	1,454
地域の環境保全への貢献	地域環境活動への参加	1点/1回	38点	30点以上
	社員の環境資格の取得	5点/1人		
化学物質使用量の削減	PRTR 物質の削減 (前年度以下)	年間使用量 (g)	5,765	5,765 以下
	毒物・劇物の削減 (前年度以下)	期末在庫種類数	43種	43種以下
グリーン購入の推進	製品購入額の増加 (+2%)	購入額 (円)	745,254	760,159
サービスの環境配慮	分析試薬の低毒化	実施件数 (件)	2件	1件以上

* : 新社屋への移転 (2012年1月) に伴い、使用量及び再利用量を把握した。

7. 環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

7.1 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	単位	2012 年度目標	実績	達成
購入電力量の削減 (-2%)	年間総量 (Kwh)	年間使用量の把握	224,376	○

新社屋への移転に伴い、2012 年度の目標は年間使用量の把握としました。その結果、使用量は 224,376Kwh でした。

7.2 廃棄物排出量の削減

取組目標	単位	2012 年度目標	実績	達成
紙購入量の削減 (-2%)	年間購入量(枚)	250,880 以下	316,500	×
紙類リサイクルの促進(+3%)	再利用量 (Kg)	年間再利用量の把握	1,178	○
廃液・汚泥の減量 (前年以下)	処分量 (Kg)	7,340 以下	4,569	○

7.2.1 紙購入量の削減

今年度の年間の紙購入量は目標値より、25%以上の大幅増で未達成となりました。その原因は業務量の増加及び報告書の作成数の増加によるものと考えています。業務の内容が従来の分析・報告業務からより複雑な環境調査の取り纏め・報告業務へ変化しており、ある程度やむおえない現象ととらえています。下書き時には片面未使用紙を再利用するなど、用紙の使用量の削減活動をさらに徹底していきます。

7.2.2 紙類のリサイクルの促進

紙類のリサイクル活動については、当社は福岡県中小企業家同友会、地球環境問題委員会が実施している古紙回収活動に参加しています。新社屋への移転に伴い、2012 年度の目標は年間再利用量の把握でした。新社屋での業務においてもさらに分別を徹底し、古紙回収にまわせるように活動します。

7.2.3 廃液・汚泥の減量

廃液・汚泥の減量目標は前年度以下としましたが、実績は前年度の62%で、達成することができました。新社屋への移転に関連して前年度は廃液・汚泥の廃棄量が増加した影響もあって、大きな削減になっています。廃液・汚泥の内容は実験室から出る試験廃液及び分析に供した土壌や汚泥の残分であることから、より廃液を少なくすることを常に考えながら分析業務を行うこと及び土壌サンプルについては、持込量をできるだけ必要最小限にするなどの活動を徹底します。

7.3 総排水量の削減

取組目標	単位	2012年度目標	実績	達成
節水の実施(-2%)	年間総量(m ³)	年間使用量の把握	1,484	○

総排水量の削減のために「節水の実施」に取り組みました。新社屋への移転に伴い、2012年度の目標は年間使用量の把握としました。その結果、使用量は1,484m³でした。

7.4 地域の環境保全活動への貢献

取組目標	単位	2012年度目標	実績	達成
地域環境活動への参加	1点/一人	30点以上	38点	○
社員の環境資格の取得	5点/一人			

7.4.1 地域環境活動への参加

大濠公園と樋井川の清掃活動(写真1)及びツクシオオガツリの保護調査などの地域環境活動に、のべ18人が参加しました。大濠公園の環境活動としては、毎月1回、実施されている大濠公園クリーンアップ隊の清掃活動に、毎回、2名ずつの参加を目標としています。また、樋井川の環境活動では、地域の住民で組織している「樋井川を楽しむ会」が実施している清掃活動に参加すると共に活動費の支援などを行っています。

本活動の実績点は2010年:44点、2011年:42点、2012年:38点と徐々に低下しています。その原因は主に「社員の環境資格」の取得者数の減少によるものであり、社員にさらに一段の努力を促して行きます。

7.4.2 社屋の緑化

5月から9月の間、社屋の南側のガラス面に緑のカーテンとして、ゴーヤを栽培し、社屋の緑化を実施しました（写真2）。ゴーヤはたいへん良く生育し、社員にたいへん好評でした。



写真1 樋井川の清掃風景



写真2 社屋のゴーヤによる緑化

7.4.3 社員の環境資格取得

「エコアクション活動手順書」に社員が環境資格を取得する際の講習会への参加費及び受験費の支援、また、資格を取得した際には「資格手当」を明文化するなど、社員の環境資格取得の支援を行っています。本年度内では、のべ4名が技術士補や小型船舶操縦免許の資格を取得しました。環境資格の取得は本人及び当社のみならず広い意味での社会環境の三者にとって有意義なことと考えており、毎年、支援を続けていく予定です。

当社で指定している資格は以下のとおりです。

- ①技術士、②技術士補、③環境計量士（濃度）、④環境計量士（騒音、振動）、⑤作業環境測定士1種、⑥作業環境測定士2種、⑦臭気判定士、⑧放射線取扱主任者、⑨特別管理産業廃棄物管理責任者、⑩水道技術管理者、⑪土壤汚染調査技術管理者、⑫小型船舶操縦士

7.4.3 地域の井戸水の無料検査

当社は水質分析を業務としていることから、毎年、地域の井戸水の無料検査を環境活動として実施しています。2012年8月30日に地域のコミュニティ紙「まいんず」（写真3）で無料検査の募集を行ったところ、59件の依頼がありました。実施後、依頼者からお礼の手紙を頂くなど、地域との繋がりができると共に当社のPRともなり、たいへん大きな効果があったと考えています。

地域の井戸水を無料で水質検査（9月末迄）

長丘で27年目の(株)新日本環境コンサルタント

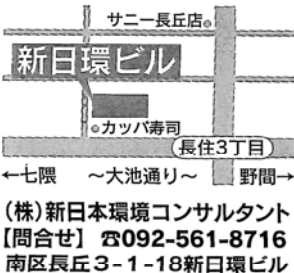
浄水器を設置したり、ペットボトル入りの水を買ったり“おいしい水”“安心安全の水”への関心が高まる昨今。「井戸水は美味しいと思うのだけれど、飲み水として大丈夫なのか心配」という井戸のある家庭に、今年も無料検査の朗報が。

社屋を新築

移転しました

長丘3丁目で水質検査や土壌調査を専門とする(株)新日本環境コ

専門技術で地もとに恩返し



「長丘で創業27年になりますが、昨年12月、同じ長丘3丁目のカッパ寿司裏に社屋を新築移転しました。此の地で長年仕事ができるのも地域あつてこそ。そこで我々の専門性が生かせる技術で、地元之恩

返しをしようと無料検査を実施することにしたのです」と同社の山崎部長。

検査は、理化学試験10種と細菌試験2種の12項目にわたり、通常依頼すると約1万円かかるもの。今回の井戸水無料検査は、事前に電話で「まいんず」で見た」と告げると専用の容器を貸してもらるので、それに自宅の井戸水を採取して同社に持ち込めば検査をしてくれる。結果は1週間ほどでわかるという。

「大震災で水道が断水し井戸水の大切さが見直されました。この機会に無料検査を受けてみませんか。但しこれは個人宅が対象ですので業者の方はご遠慮下さい」と同社では話している。

写真3 井戸水の無料検査の募集

7.4.4 希少水生植物のツクシオオガヤツリの保護活動

ツクシオオガヤツリはカヤツリグサ科の湿地植物で、福岡県指定天然記念物、環境省レッドデータブック絶滅危惧種 IB 類に指定された植物です。福岡市の大濠公園に隣接する小さな池の群落が天然記念物に指定されています（写真4）。ツクシオオガヤツリは中国の宗との貿易の際に博多に着いた荷物に種子がついてきたものだと言われています。この植物の保護を目的にして、福岡市内の池、沼での分布状況の調査を実施しています。分布調査の中では、新たな繁茂池を発見するなど、有意義な活動になっています（写真5）。



写真4 ツクシオオガヤツリ
(福岡県指定天然記念物、福岡城址池)



写真5 市楽池（南区長丘）の繁茂状況

7.5 化学物質使用量の削減

取組目標	単位	2012 度目標	実績	達成
PRTR 物質の削減	年間使用量(g)	5360 以下	5,765	×
毒・劇物の削減	保有種類数 (種)	44 以下	43	○

PRTR物質の使用量は目標値よりも7.5%増加し、未達成でした。薬品の使用量は分析方法が公的に定められていることから、削減の方法については、指標の見直しが必要と考えています。「毒・劇物の削減」については、保有種類数を44種から43種へ1種減らすことができました。

7.6 グリーン購入の推進

取組目標	単位	2012 年度目標	実績	達成
購入量の増加	購入額 (円)	563,248	745,254	○

目標を昨年度実績の 2% 増として取り組み、結果は目標値を 32% 上回るたいへん良い結果でした。来年度も引き続き同じように活動を続けていきます。

7.7 サービスの環境配慮

取組目標として「分析試薬の低毒化」を掲げ、年間に 1 件以上必ず取り組むこととしています。本年度は、ノニルフェノールや農薬の分析時にジクロロメタンの使用量を少しでも削減することについて検討しました。

7.8 エコアクション 21 の広報活動

2011 年度版環境活動レポートを 2012 年 5 月 8 日に作成し、EA21 地域事務局を通して公開すると共に当社の取引先及び来客者に配布しています。また、当社のホームページで公開しています。2012 年度版環境活動レポートは 2013 年 5 月 1 日に発行の予定です。

7.9 次年度以降の取組内容について

本年度は新社屋への移転に伴って、二酸化炭素排出量や総排水量などの環境目標を「年間使用量の把握」としました。次年度はその数値をベースに、従来どおりの数値目標値を設定し、活動を実施します。

当社の業務内容及び量は年度当初に行われる入札などの結果により大きく変化するため、取組の目標となる数値は前年度の実績を基に決めていました。そのため、経年的に見ると目標値が上下する現象が生じていました。このことから、新社屋への移転を機会に、「二酸化炭素排出量の削減」及び「総排水量の削減」についての目標値を決定する際には、新社屋に移転した 2012 年度の実績値をベースに 3 年先までの目標値を定めることとし、表 3 のように決定しました。

表 3 二酸化炭素排出量及び総排水量の3ヵ年削減計画目標値

環境目標	取組目標	単位	2013年度	2014年度	2015年度
CO ₂ 排出量の削減	購入電力量の削減を含む省エネ (-1.5%)	年間総量 (CO ₂ Kg)	128,053	126,133	124,241
	購入電力量の削減 (-2%)	年間電力量 (Kwh)	219,888	215,490	211,180
総排水量の削減	節水の実施 (-2%)	年間総量 (m ³)	1,454	1,425	1,396

また、本年度から新たな方向として、二酸化炭素排出量の削減については、削減活動だけではなく、「造酸素活動」にも取り組みました。「造酸素活動」としては、新社屋の南側面の緑化をゴーヤで行いました。次年度は他の植物（カズラ、ヒョウタンなど）を用いて実施する予定にしています。

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟などの有無

当社に係る環境関連法規の内容と遵守状況を確認した結果を表3に示します。表3に示すように、問題はなく、過去3年間においても法規違反事例はありません。また、関係機関などからの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情もありません。

表3 当社に係る環境関連法規と遵守状況の概況

法律名等	対象設備・作業等	確認日	手段	確認
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	イ. 処分先の確認	6月19日	電話	○
	ロ. 適正保管	6月19日	現場	○
	ハ. マニフェストの管理	6月19日	帳簿	○
下水道法	ニ. 測定の結果報告	6月18日	記録	○
毒物及び劇物取締法	ホ. 試薬の管理	6月18日	帳簿	○
	ヘ. 毒劇物の表示	6月18日	現場	○
悪臭防止法	ト. 苦情の有無	6月19日	記録	○
消防法	チ. 設備基準	6月20日	現場	○
	リ. 点検結果	6月20日	帳簿	○
放射線同位元素等による放射線障害の防止に関する法律	ヌ. 表示の状況	6月18日	現場	○
	ル. 放射線の測定	6月18日	記録	○

9. 代表者による全体評価と見直し結果

2013年4月の「定期的見直し」での評価及び指示内容は以下のとおりでした。新社屋への移転に伴い、新たな気持ちで、エコアクションに取り組み、経営に役立てていくこと。また、PDCAサイクルの機能達成度については、最終的なAの活動が最も低い気がするので、この点に力を注ぐこと及び本年度使用量を把握した項目については、その値を基準として、削減計画を立案し、確実に実施して行くようにとの指示がありました。また、化学物質の削減についてはさらに工夫して実施するようにとの指摘がありました。

以上の評価及び指示に基づき、毎週月曜日の朝の全体会議の中で、エコアクションの活動の状況を報告し、社員全員で改善策を協議・検討しながら推進していきます。